

ともだち ねむの木 そして私^{その}3





宮城まり子のふれあいエッセイ

ともだちねむの木
そして私
その3

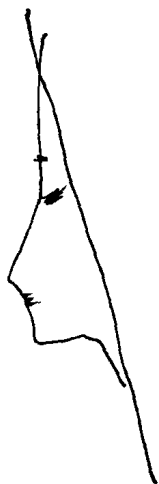
宮城まり子のふれあいエッセイ
ともだち ねむの木 そして私 その3

1980年11月25日 第1刷発行

- * 定価——780円
- * 著者——宮城まり子
- * 発行者——堀内末男
- * 発行所——株式会社集英社
〒101 東京都千代田区一ツ橋2-5-10
☎出版部 03-230-6361
☎販売部 03-238-2781
- * 印刷所——大文堂印刷株式会社
株式会社美松堂印刷所

乱丁本・落丁本はおとりかえいたします 検印廃止

©1980 M.MIYAGI Printed in JAPAN
0095-772286-3041



★目次★

いろいろなことあるのですね ————— 6

絵のお話 ————— 11

可愛い人々 ————— 16

ロンドン便り ————— 21

世界中の子のなかで ————— 29

責任を持つ素晴らしさ ————— 37

ベッドの上から ————— 42

思い出の旗 ————— 48

ともだちっていいなあ ————— 53

誌上ミュージカルをどうぞ ————— 59

今日、あったこと ————— 66

うれしい記事 ————— 72

幸福な時 ————— 77



表現の勇氣——84

考えたいこと 迷うこと——89

枯葉の色——94

こわい十二月——102

張り切つてやろうよ!!——107

走り続けます——113

喜びと不安——118

あなた、すみません、お許し下さい——123

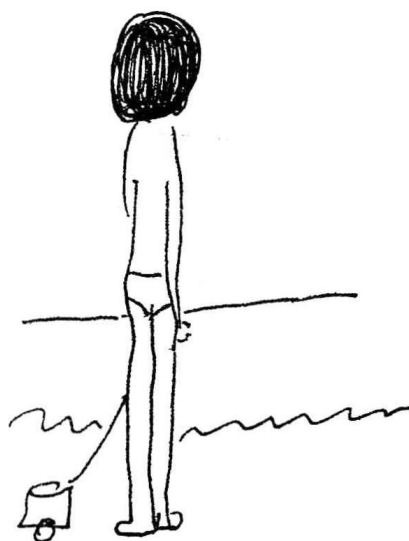
ああ、神様——129

迷い、悩む季節に——135

しあわせさんが来たのよ——140

やり抜きましょう!——145

あなた、教えて——151



ちよつとグチ……— 156

たのしい花だより—— 161

こんなおだよりも……— 166

信じるということ—— 172

生まれた日—— 176

まだ、初めてのようになにいつも初めてのようになに—— 181

風邪ひき天使—— 187

となりの芝生—— 193

五月三日よりのサイタルの広告—— 198

仕事？—— 203

車イスでうたったの—— 209

あんちゃん—— 215

まり子と素晴らしいお父さんたち—— 222



ある日のこと — 228

病院の窓 — 234

病床の私に聞けるもの…… — 241

病院と病院と — 246

オレンジ色の寝台車 — 251

海辺のベッド — 256

ただいま — 261

手術室直行 — 266

やさしさをありがとう — 273

あるくこと — 278

最初のこと — 283

病院ちゃんから — 289

さみしな日はいぢや — 294



ともだち
ねむの木
そして私

その
③

いんいんないゅあめのぶあね

あなた、おげんきですか？

おしあわせですか？

私は、おかげで元気です。

東名道路で事故ばかり、あのトンネルの重大事故から、私は、一度、外国に行っているのに、また帰ってきても、三重衝突や二重衝突。おかげで、時間ばかりかかります。

この間は、まあ、なんて車間距離をびっしりもっているのか、みんな、恐ろしい出来ごとに、気をつけているのかと思ったら、また、朝、三重衝突。ああ、なんでしょうと思いつながら、金曜日の午前中、東京に、とどけて、又、関西に土曜日にもどろうと、スピードをだしすぎたのか、つかれているのか、こう毎日天気が変わっては、東名道路をはしるトラックの運転手さん、無理してるのがあたり前。つかれてるのがあたり前。夏休み、子どもたち、学校夏休み、奥さんが全部子どもを見ることになるし、「ねえお父ちゃん、海につれてって」っていわれたら、お父ちゃん、無理しちゃうだろうなって、思っちゃう。

「ねえ、海におよぎに行こうよ」って、ガールフレンドにいわれたら、無理してしまうだろうなと思

うのは、私の甘い考えでしょうか？

こんなに、暑い変なお天気が続くから、みんないららするだろうけど、どうか私たち、しっかりしていることにしようよ。

いっぱい世の中に仕事がある。仕事はあるけど、お天気のため、つらい月もあるでしょうね。

でもね、どうか、この暑さを、みんなのりきって行きましょう。

だってさ、いらいらしたら、そんな。がまんして、このいやなお天気野郎が、通りすぎるのを、待ちましょう。

そういいながら、私ね、これ、自分にいきかせているのよ。

だって、とっても、つらいんですもの。あなたもね。

あなた、おからだのちょうし、どう？　こんなに、暑いと、ベッドはつらいわ。どうぞ、気をつけて下さいね。

昨日も、私の尊敬している先生の奥様が、病気でねたつきるときき、そういうとき、どんなふうに、お見舞いすれば、いいのか、私には、わからなくなるのです。

行けば、お手間をとらせることになるだろうし、おいそがしいだろうし、だからってお逢いしなれば、義理をかく、そんな気と、先生に、なんと、おなぐさめしていいか、上手な言葉をもたない私なのです。

そんな「時」って、いっぱい、いっぱいありますね。でも、これは、淋しいほうの出来ごとで、とても、たのしい、夏休みのかたのほうが、多いはず。

どうぞ、たのしい夏をおくって下さいね。

私は、十日から、ブルガリアの首都、ソフィアでおこなわれる、国際児童年に、出席のため、行きます。

やっぱり、せっかく、御指名で招待された八人のねむの木学園の子どもたちを連れて行くことに、かくごをきめました。なんにも迷うことないけど、やっぱり、気がかりだし、心配だし……、八人は、私が、いっしょうけんめいみて、とにかく、そばにいるのだから、私の責任だけど、残る子どもたちと職員の皆さんに、すべてをたのんで出かけるので、責任が、残る方々に行くので「すまない」そう思うのです。

二十日間も、そう、長いですね。

ヨーロッパに住む人々なら、飛行機で一時間とか、バスで五時間とか、ギリシャでさえ、車で四時間、近いところにあるけれど、日本は、遠いですね。

でも、世界中でね、八十一カ国の子ども、約三千人が、集まるのだけど、障害をもっている子は、日本の八人だけなのです。その子が、英語やフランス語やロシア語やブルガリア語の通じる中で、いかに、がんばってくれるのでしょうか。勝負でいくのではないけれど、やっぱり、同じように詩をかき、絵をかくのです。三つの分野がありますの。文学と絵と音楽。

ねむの木学園は、文学（詩）と絵と映画で参加します。コーラスは、日本から岩手県の盛岡の少年少女合唱団の二十九名の子が行くの。

でも、子どもたちのこと、心配しないの。すぐなかよくなるでしょうから。ただ、ねむの木の子は、障害をもった代表だから、私の責任は重い。

今日ね、あきひろちゃんが、一日中、ねているんですって。

心配したら、お熱は六度二分、きいたら、ちょっと、のどが、いたかったので、病気になる、行けなくなっちゃうというので、キッチンと一日中、上をむいて、つっぱってベッドに入っているんです。

よかったアと笑いながら、その気持よくわかると思いました。

そして、日本に残る子は、冬に行った「国立那須甲子少年自然の家」に行きます。冬のあいだに約束しておいて、よかったワ。だって、とっても、とってもお安くて、三食つきで九百円。そして、とってもとっても広いのですもの。私、みんなにこういったのよ。

「あのね。発表します。いつもおでかけの時も、ねむの木学園でも、子どもは、大人に、みてもらっているから、那須甲子では、子どもが大人をよくカントクして下さい」

「ワイー、うれしい」

「え、チーフは、けんちゃん、とっちゃん、女の子のチーフはえっちゃん」

「ワイー」子どもたちに、それぞれ役をつけました。ハンカチかぞえ係、ベッド見回り係、レコード係、時間係、そして、自分？ と顔を出す子に、

「みっちゃん、あなたは、おやつ係」

「うーん、一人じゃできないから、もうもう一人」

「そうね、じゃ、なるみちゃんと」

「アタチは？」

「おかしかぞえがかり、だって、五つと三つじゃ、ずいぶん違うでしょ」

「ぼくは？」

「うーん、ぼくは、おかし、たべ係」

パンツとハンカチとクツ下は、自分たちで、洗うことにしました。

「ぼく、お兄さんのものも、あらってあげるよ」

いちばん小さいたけちゃんがいきました。

「……………」と顔をのぞかせた、ブルガリアに行きたかったたけひとちゃんに、

「毎日、日記をつけて、たくさん日記をつけて、まり子さんに、みせる役」

そのうれしそうな顔。

子どもたちって、いつも手足が不自由であつたり、少しおそく考えついたりするもんだから、お兄さんやお姉さんに手助けしてもらうから、人になにかをしてあげることが好きなの。

だからとっても、楽しみなの。

お兄さんやお姉さんのお世話をするのが……本当は、お世話をされたら、お兄さん、お姉さん、される方が大変だけど、子どもたち、たのしいの。

ねえあなた、してもらうより、させてもらうほうが、しあわせですものね。

私、げんきです。とっても。あなた、元気で、暑さにまけずにいて下さい。

では、行ってまいります。

まり子



絵のお話

あなた、お元気ですか？

おしあわせですか？

私は、とうとう、ブルガリアにもって行く、新しい映画『虹をかける子どもたち』を、完成させましたよ。

あのね、でも、本当のことというと、もう少し撮り足しをして、歌をたくさん入れるのだけれど、どうしても、前作『ねむの木』の詩がきこえる』と新しいのを、みせてほしいといわれて、シンポジウム用に、英語版をつくりました。

英語のナレーションは、ジェリー伊藤さんのの。

あの方の英語は、アメリカ生まれですけど、演劇アカデミーを出ていらっしゃるし、シェークスピア劇とか、お勉強していらっしゃるから、アメリカ英語だけじゃない、イギリスの品のある英語なの。一時間二十分にまとまった、映画のナレーション、がんばって下さったのよ。

そして、そのまま、音楽をとり、お食事の時間もなしで、とうとうダビングもやっちゃった。

素敵よ、とっても、素敵よ。本人がいうんだから、本当よ。素敵よ。きれいよ。つとむちゃんのと

ころ、「つとむ……」って、いって、つとむちゃんが「マミー」って答えるところ、ふとみたら、ジエリーさんの目が真っ赤なの。

五回いうはずなのに、三回しか、おっしゃらないの。三回で、その感情が、出れば、素敵だから、それでオーケーだけど、もしかしたら、彼、泣いたのよ。奥さまがそうおっしゃった。

秋に、コーラスとか、撮り足すぶんがあるの。前から約束してある、上条恒彦さんとボニージャックスの皆さん。

出発の十日の三時、東洋現像所というところで試写をして、持って行くのよ。谷内六郎さんが、おそうじのおじさんで、子どもたちといっしょに浜辺に絵をかくて、水が、消すところ、いいわよ、きれいよ。

それから……、うん、あんまり書くで見なくなると困るナ。でも、日本で上映する時、見て下さい。本当に、今まで、二本の映画、しあわせにも、たくさんの方に、見て戴いています。

今日も、日本中のどこかで、上映しているのね。

なんの、スポンサーもない、二本の映画は、とても、しあわせなの。

この三本目も、どうぞ、どうぞ、めぐまれますよう。オーバーないい方だけど、すべてダビングの終わった、朝十時、目黒スタジオの玄関で、私は、かがみこんでしまったの。そして、思ったのよ。何故、こんなに、がんばるのかナって。自分でお馬鹿さんで思うんだからいいわねエ。

そして、自分で、自殺街道まっしぐらっていいって、笑っちゃった。

でも、ちょっと、一人で、泣いちゃった。馬鹿でしょ。でもね。つくらなくちゃいけないと思ってしまう、思いつめてしまうほど、あの子たちの絵は、可愛く美しいのよ。シンポジウム、十八カ国の

これ、どきどきやんの絵の
カニサク

まーく

ポスターにーミューン



教育の専門家の前で、私、発言させられるの。短時間発表と長時間とわけられていてね、私のは、長時間なのよ。だから、映画で発表するの。

だから、あくまでも、今回ののは、学会用のナレーション……でも、楽しいのよ。“子ども才能開発”っていうところ。

これを書いていたら、少し、厚いフウトウが届いたので、開いてみたら、かわいい絵が、描いてあるの。三枚もよ。

そして、お手紙は、お母さまなの。

前略。

先日、外出の際、駅の売店で、週刊明星を買い、家に持ちかえったら、七歳になる娘（自閉症）が、
へ宮城まり子さんのふれあいエッセイのところにばかりだまって見ていました。

毎日、毎日、同じ所ばかり開いて、だまって、見ているので、主人と、この子にもこれを見て、通
じ合うものがあるのだろうかと話しております。

娘に「どこが、そんなに好きなの」ときくと「絵が好きなの」といいます。娘は絵が大好きで、い
つも何かに書いてます。けれど、七歳の子どもの描く絵とは、とても思われない、おさない絵ですが、
明るい、たのしい絵だと、親は思っています。

同封しますので、見てやってください。まり子さんには、たくさんお話をしたいことがあります
また、書きます。さようなら。

（お名前略）

お母さま、けれど、七歳の子どもの描く絵とは、思われないとありますが、私、とっても大好きで
す。

御両親も、明るいあのしい絵だと思われるように、私も、そう思います。

そして、カット一つかくのも、心をこめて、描かなくちゃいけないナと、改めて思いました。
こういう、たぐさんのたのしい絵が、いっぱいあるんですのよね。

専門家も、昔は、なんとかかんとかいったかも知れないけど、今、現代、子どもの絵を、おさない
とか、下手とか上手とか、大人は、一人もいう権利を持ちません。そう思います。

幼ないころを忘れる大人や、幼ない心を忘れる大人になりかけの人がいるから、悲しいことが、た